



を行っている。

学習だけでなく、さまざまな体験をする総合学習。スポーツやゲームなどの自由活動、絵や手話などの特別講座もカリキュラムに入っている。スタッフは事務長の増田良枝さんら四人だが、約二十人のボランティアが活動をサポートしている。

子どもたちほもスタッフと話し合いながらカリキュラムなどを決める。学習時間も決められている。これは子ども次第。「自分のことは自分で決める」というルールがあり、子どもたちもこの時から運営にかかわってきた。その後学習塾が閉鎖するのを機に部屋を借りてフリースクールとして再出発した。

越谷市のNPO法人「越谷のるご」(竹村洋介理事長)は、不登校などの子どもを支援するフリースクールの運営を中心活動している。

「りんごの木」は、一九九〇年に今の場所が学習塾だった時に、昼間借りて、フリースペースとして活動を始めた。増田さんはこの時から運営に参加して活動を始めた。増田さんはこの時から運営に参加して活動を始めた。

たいと思い勉強を始め

した方が強制されて勉強するより身に付くし効率もいいと思います」と増田さん。

越谷のるご

竹村洋介理事長 越谷市

☎048・970・8881

【必要なもの】 現在のスペースは民家の二階部分のみなので、もう少し広いスペースがほしい。活動のためのワゴン車も

【困ったこと】 フリースクールが子どもの多様な育ちの場としてとらえられにくいこと

【喜び】 人とのつながりと、子どもと一緒に何かを創つていけること

十分に対応できない。そた十八歳以上を対象こ柔軟性のある民間のに社会でうまくかかわるに社会でうまくかかわる

すべての大人たち に聞いてほしい

もっと子ども応援を

手書き文字は「りんごの木」
君の海 (かい) 君

取材メモ

ムや制度に、不登校やひきこもりの原因がある。その指摘は考えさせられた。

「不登校やひきこもりの問題は大人の問題」という増田さんは、「子どもたちの問題は大人の問題」という増田さんの言葉が強く心に残った。二人の子どもが不登校だった増田さんの経験

に根ざした言葉だけに重い。これまで疑問なく受け入れてきた社会システ

もたちは自分の時間を自己管理する。

「たとえばずっとマンガを読んでいたとしても

ある日、他のことをやり柔軟性に欠けているので

高校生など十八人が通っている。火、日曜日を除く週五回開かれている。不登校の子どもだけでもなく、通信制高校に在籍している子どももあり、交流と学びの場所となつていている。復学、進学、就職などのための学習支援

「学校に気持ちは向かないな」と思つ。しかし今の会システムや学校制度は

大人の問題。放つところでは、さままま生き抜けにはいかない」と増田さんは、フリースクールの子どもを持つ親のつどいなどを行つている。

「たとえば、大人の問題は、不登校やひきこもりの問題ではない。子どもの問題は大人の問題」という増田さんは、「子どもたちの問題は大人の問題」という増田さんの言葉が強く心に残った。二人の子どもが不登校だった増田さんの経験

しかし考え方なければいけないことだと思つた。(佐藤達哉)

